

まちかど・ズームIN!

日ごろの運動不足を解消

みやぎ蔵王ファミリーウォーキング

新緑の川原子ダム周辺約8kmのコースを歩く「みやぎ蔵王ファミリーウォーキング」が5月20日に開かれました。

参加したのは4歳から86歳までの77名で、山道のわきに咲き始めた花や野草を眺めながら、約2時間半のウォーキングを楽しみました。

ゴールとなったダム湖畔では、みんなと一緒に手作りのおにぎりやお弁当で昼食。参加者は、心も体もリフレッシュできたようです。



埋没車両救出救護訓練



あの教訓を忘れずに!



各訓練内容を巡視する浅野知事



防災ヘリコプターによる重患空輸送訓練

6・12 白石市総合防災訓練

婦人防火クラブによる初期消火訓練



宮城県沖地震を教訓として、大規模地震の発生を仮定した白石市総合防災訓練が6月12日、ソニー白石セミコンダクタ(株)を会場に、37団体約800名が参加して行われました。

埋没した車両に閉じ込められた人の救出訓練や、初期消火・煙中避難訓練、上下水道などの復旧訓練が行われ、参加者は、いざというときに備え真剣に取り組みました。

また、浅野知事も県防災ヘリコプターで駆けつけ、各訓練内容を巡視しました。

裏舞台まで紹介



緑豊かに育って!



平成2年から国立南蔵王青少年野営場を中心とする南蔵王山ろくで、緑豊かな森の復元運動に取り組んでいるNPO法人「蔵王のブナと水を守る会」が6月10日、みどりの少年団などと一緒に植樹を行いました。

今回の植樹地は、ナショナルトラスト運動で購入した白石スキー場近くのトラスト地と野営場の2カ所で、ヤマハンノキ、ナラ、クヌギなど約500本の落葉広葉樹を植樹しました。参加した会員や東北電力グループ社員、小原みどりの少年団員など合わせて約70人は、荒れた土地をくわで掘り起こし、苗木を1本ずつ丁寧に植え、順調な成長を願いました。

能楽ワークショップ



碧水園の開園10周年を記念した「能楽ワークショップ」が6月16日に碧水園で開かれ、立ち見席までもいっぱいとなる約350人が詰めかけました。

初めに、観世流の観世喜之さん、喜正さん父子が仕舞を舞い、能「羽衣」では、母親が小原出身で、観世さんに師事する小島英明さんがシテを務めました。

また、舞台の冒頭と合間に、能についての詳しい解説と、能装束の着付けの実演が行われ、通常の舞台では見ることができないユニークな企画に、観客は能の魅力を十分に楽しみました。

みなさんからの素敵な情報を待ってます!

元気と希望のタスキをつないで マスターズ日本一周健康リレー



中高年者が健康づくりの素晴らしさを伝えるため、タスキをつないで全国約8,000kmを走る「マスターズ日本一周健康リレー」の出発式が5月28日、市役所前で行われました。

この日の走行区間は岩沼市までの約30kmで、市役所を出発する5名のランナーが走るの、福岡深谷地区までの5.5km。出発式では多くの市民が見守る中、川井市長の号砲で一斉にスタートしていきました。

ランナーとなったのは次の方です(敬称略)。巨泉猛(本町)、大庭正子(田町)、佐久間勇一(八幡町)、古山吉夫(大川町)、平間孝明(蔵王町)

楽しみながら健康に! 市民グラウンドゴルフ大会



白石川緑地公園で6月3日、市内の老人クラブや斎川小の児童など93名が参加して第10回市民グラウンドゴルフ大会が開かれ、16ホールで熱戦を繰り広げました。各部門の優勝者は次のとおりです(敬称略)。

団体：小原グラウンドゴルフ愛好会
個人：シニア・佐藤賢一、オープン・高野良一、ジュニア・菅野直哉

フォーラムが流行りである。私も時折、パネラーとして呼ばれることがある。知識が豊富なので呼ばれるのだらうとうぬぼれていたが、そうではなくて発言に天然ボケのようなところがあり、これが面白くて呼ばれるのだということが分かってきた。

一つの例を言うと、平成十年に「戊辰戦争百三十年イン角館」というフォーラムが秋田県角館町であったその時に「萩市と会津若松市に囲まれて油汗を流してあります。言ってみれば、北朝鮮と韓国の北緯三十八度線に位置しているような心境であります。」と言って大爆笑を買った。

そのために、会津若松の山内市長から「萩に対しての恨みというのは戊辰戦争で



川井市長の
せせらぎトーク

パネラー

せんが、私共のまちは江戸時代の人口にまで及びません。年を経るごとにだんだん

会津が敗れ去ったからだけではいけない。戦死者を埋葬したいとの願いが許可されなかつた。一年近く町

中に放置しておいたために、死臭が会津の城下を覆い、埋葬が許されたときには遺体は痛みきっており、皆号泣しながら寺に掘った大きな穴に収めた。という恨み言を引き出し、一方、萩の野村市長は「もし、今萩が栄華を極めて繁栄しているのであれば恨まれても仕方がありません。年を経るごとにだんだん

減っております。」と言う。これでは仲直りどころではない。五月十八日の仙台開府四百年記念伊達交流サミットでも、司会から「政宗公といえはその家臣の中でも名参謀役といわれたのが片倉小十郎です。その白石城の城下町、白石市の川井市長お願いします。」とバトンタッチされたときに、「私はこんなサミットに参加するのではなかったと後悔しております。よその市や町の方は例えば、政宗公の長男秀宗公が藩祖となりひらかれた宇和島市、あるいは、松平忠輝公の高田城の城下町、新潟県上越市」といったように全部「公」で呼ばれているが、いかに家臣とはいえず、私の時だけ片倉小十郎と呼び捨てられた。これでは、白石に帰って片倉小十郎公に何とご報告を申し上げたらいいか分からない。」とこぼしてやりました。

司会の渡辺祥子さんにはちよつと気の毒だったが、会場は大いに沸いた。さすがに藤井仙台市長は老練で、最後のシメで「政宗公があれだけの英雄になれたのも、米沢の虎哉和尚の訓育や、片倉小十郎公(特に声を大にして)の支えのおかげだということがよく分かりました。」と笑いを誘った。宇和島の支藩である吉田藩、愛媛県吉田町の清家町長から「最近新種が開発されて、吉田町のみかんは日本一の味である。今日お集まりになった首長さん方に一箱ずつお送りするので、ぜひ、味わっていただきたい。」という自慢話がでた。

すかさず私、手を挙げて、「吉田町長さんの知らないことを一つだけお教えしましょう。片倉家十四代の健吉男爵は吉田藩からお嬢さんに来られた方です。私も小さいときにお目にかかったことがありましたが、ちよつと町長さんのように大変威厳のある方でありました。その縁がありますので、白石にはぜひとも二箱いただきたい。(満場爆笑)とねだった。

いったい吉田町のみかんはいつ届くのだろう。仙台藩の飛び地である茨城県龍ヶ崎市の串田市長からは名産のトマトがもう届いているというのに。